

持続可能な開発のための教育(ESD)の推進

～今日よりいいアースへの学び～



文部科学省国際統括官付
国際統括官補佐 鈴木 規子



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

- I ESDと国際的な動き
- II 我が国におけるGAP実施計画
- III ESD推進ネットワーク
- IV ユネスコ/日本ESD賞
- V 「ESD推進の手引」と活用
- VI ESD推進拠点としてのユネスコスクール
- VII 持続可能な開発目標(SDGs)とESD

I ESDと国際的な動き

1. 「ESD(持続可能な開発のための教育)」とは？

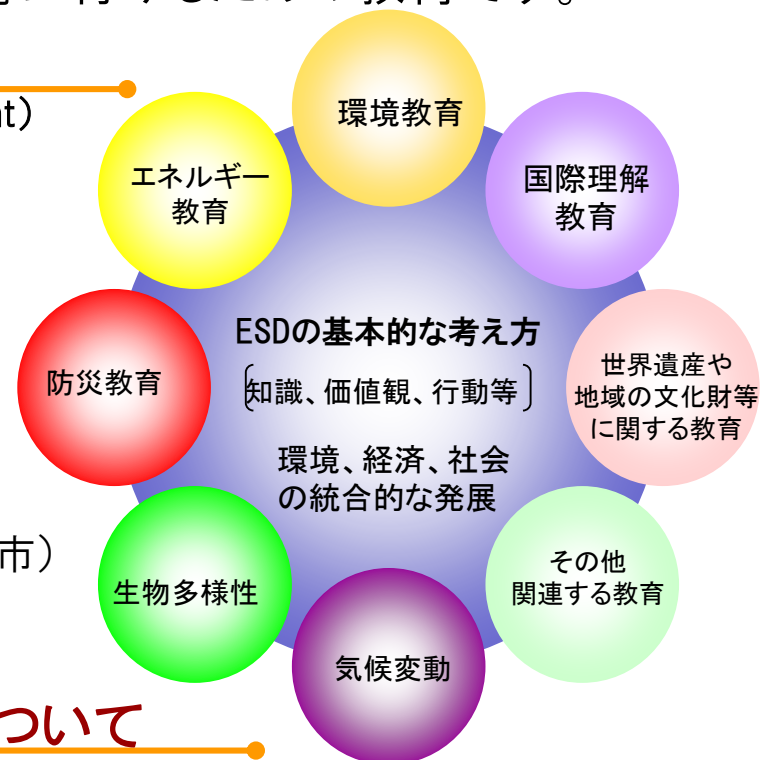
ESD=Education for Sustainable Developmentの略。

持続可能な社会の担い手を育むため、地球規模の課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自分で考え行動を起こす力を身に付けるための教育です。

2. 「国連ESDの10年」(UNDESD)について

(United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年 国連決議(第57回総会)
 - ・ 2005～2014年の10年
 - ・ ユネスコを主導機関に指名
- 2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定
- 2009年 ESD世界会議(ボン)
 - ・ ボン宣言の採択
- 2014年 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議(愛知県・名古屋市/岡山市)
 - ・ あいち・なごや宣言の採択
 - ・ ユネスコ/日本ESD賞の創設



3. グローバル・アクション・プログラム(GAP)について

- 2013年 第37回ユネスコ総会にて採択
- 2014年 第69回国連総会にて採択
- 2015年～2019年 グローバル・アクション・プログラム(GAP)に基づいたESDの推進

Ⅱ 我が国におけるGAP実施計画(国内実施計画)

平成28年3月、文部科学事務次官・環境事務次官を議長とする13省庁(オブザーバー含む)から成る「**持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議**」において、GAPが定める5つの優先行動分野に沿い、関係省庁が取り組んでいく事項を記載した「**我が国における『持続可能な開発のための教育(ESD)に関するグローバル・アクション・プログラム』実施計画**」を策定。

ステークホルダーの取組

①政策的支援

ESD支援のためのネットワーク機能の体制整備、教育政策へのESDの位置付け、国際的なESDの推進 等

②機関包括型アプローチ

ESDを推進するモデル校の育成、様々な機関が組織全体としてESDに取り組むことの促進 等

③教育者

「ESD推進の手引」を活用した教職員研修や教材の作成、ESD実践者の能力を育成する施策 等

④ユース

ユースフォーラムの開催、全国ユース環境ネットワーク促進事業の実施 等

⑤地域コミュニティ

地方環境パートナーシップオフィスにおけるコーディネートの推進、ESDコンソーシアム事業の拡充 等

点検・見直し・評価

各ステークホルダーによる**自主的 point 点検(モニタリング)を推奨**

※GAP開始以降の各ステークホルダーの取組については、HP等を通じて募った情報提供の結果を踏まえ、平成29年3月にユネスコの主催で開催される「**ESDレビューフォーラム(於カナダ・オタワ)**」での報告を予定

Ⅲ ESD推進ネットワーク(1)

ESD推進ネットワーク: 文部科学省と環境省の共同提案による、持続可能な社会の実現に向け、**ESDにまつわるマルチステークホルダー**が、地域における取組を核としつつ、**様々なレベルで分野横断的に協働・連携してESDを推進することを目的としたネットワーク**。ESD活動支援センター(全国・地方)及び地域ESD活動推進拠点から成る、官民協働によるプラットフォーム(全国センターは、東京ウィメンズプラザ(国連大学の隣)に設置)。

ESD活動支援センター(全国センター／地方センター)

ESD推進ネットワークを形成し、以下の機能を通じてESDの取組を支援

■4つの「はたらき」

- ①情報の収集・発信 ②支援体制の整備 ③学びあいの促進 ④人材の育成

■3つの「つなぐ」

- ①多様なテーマをつなぐ ②地域をこえてつなぐ ③国際的な情報をつなぐ

※全国センター: ESD推進ネットワークの全国的ハブ。東京都渋谷区神宮前(表参道)に、2016年4月に開設。

※地方センター: ESD推進ネットワークの広域ブロックにおけるハブ。地方環境パートナーシップオフィス(EPO)を活用して、2017年度に全国8ブロックに開設予定。

地方ESD活動推進拠点

学校区、市町村、都道府県、広域ブロックなど様々な活動範囲を持つ組織・団体や地域協議会、コンソーシアムなどが拠点となり、それぞれの得意分野を活かした支援や学び合いを行うことでESDを支援。

Ⅲ ESD推進ネットワーク(2)

ESD活動支援企画運営委員会: ESD推進ネットワーク全体の基本的方向を議論するとともに、ESD活動支援センターの事業計画や個別事業に対する指導助言を行う機関

委員一覧(敬称略)

上野 浩文	一般社団法人コミュニケーションデザイン機構(近畿環境パートナーシップオフィス請負団体)代表理事／近畿環境パートナーシップオフィス(きんき環境館)事業統括
及川 幸彦	東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター主幹研究員／日本ユネスコ国内委員会委員
川田 力	岡山大学(ASPUnivNet運営委員会前担当大学)大学院教育学研究科教授
久保田 学	公益財団法人北海道環境財団(北海道環境パートナーシップオフィス(EPO北海道)請負団体)事務局次長
佐桑 徹	一般財団法人経済広報センター 常務理事兼国内広報部長
重 政子	特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J) 代表理事
新海 洋子	特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ(中部環境パートナーシップオフィス請負団体)中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)チーフプロデューサー
鈴木 佑司	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟副理事長
関 正雄	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR室シニア・アドバイザー 明治大学経営学部特任准教授
辰野 まどか	一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)専務理事／事務局長
常川 真由美	特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク(四国環境パートナーシップオフィス請負団体)／ 四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)所長
仁科 俊彦	岡山市市民協働局ESD推進課課長
堀江 振一郎	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 理事・事務局長
増田 直広	公益財団法人キープ協会環境教育事業部長／ 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター館長
森下 研	一般財団法人持続性推進機構専務理事、エコアクション21中央事務局長 環境人材育成コンソーシアム事務局



Ⅲ ESD推進ネットワーク(3)

ESD推進ネットワークの構築に向けた協力について(依頼)

<p style="text-align: right;">事務連絡 平成28年11月8日</p> <p>各都道府県教育委員会指導事務主管課 各指定都市教育委員会指導事務主管課 各都道府県私立学校事務主管課 附属小・中学校を置く各国立大学法人附属学校事務担当課 独立行政法人国立青少年教育振興機構</p> <p style="text-align: center;">御中</p> <p style="text-align: center;">文部科学省国際統括官付</p> <p style="text-align: center;">ESD推進ネットワークの構築に向けた協力について(依頼)</p> <p>日頃からユネスコ活動及び持続可能な開発のための教育(ESD)に御理解と御協力を賜り、ありがとうございます。</p> <p>ESDの推進については、これまでも平成26年12月8日付け26文科統第156号(持続可能な開発のための教育(ESD)の推進について(依頼))において通知するとともに、平成28年3月31日付け27文科統第206号においても、「ESD推進の手引」の送付について通知するなど、学校現場におけるESDの推進について御協力をお願いしたところです。</p> <p>また、平成28年3月に策定された「我が国における『持続可能な開発のための教育(ESD)』に関するグローバル・アクション・プログラム」実施計画においては、「ESD活動に取り組む様々な主体が参画・連携し、地域活動拠点の形成とともに、地域が必要とする取組支援や情報・経験の共有できる『ESD活動支援センター(全国・地方)』を整備し、地域の実態を踏まえた効果的な運用を図っていく。」とされています。こうした働きを受け、文部科学省と連携者の共同での提案により、平成28年4月にはESD活動支援センターが開設され、現在は、平成29年7月を目途に全国8か所の地方ESD活動支援センター(仮称)の開設や地域ESD活動拠点の整備が進められるなど、ESD推進ネットワークの構築に向けた準備が進められています(詳細は別添パンフレットを参照のこと)。</p> <p>ESDの推進には、これまでの教育分野におけるESDの知見を生かして、ESDに関する取組の支援や情報・経験の共有を体系的に行い、分野を横断して連携協力していくことが重要です。また、環境教育等に取り組む民間団体等の知見を学校現場で活用することは、これまで各教育委員会や学校等が取り組んできた活動の更なる充実につながるものです。</p> <p>ついては、都道府県教育委員会指導事務主管課にあっては所管の小・中学校(中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の小学部・中学部を含む。以下同じ)及び指定都市を除く域内の小・中学校を置く市町村教育委員会に対して、指定都市教育委員会指導事務主管課にあっては所管の小・中学校に対して、都道府県私立学校事務主管課にあっては所轄の小・中学校に対して、国立大学法人附属学校事務担当課にあってはその管下の附属小・中</p>	<p>学校に対して、独立行政法人国立青少年教育振興機構にあっては管下の国立青少年自然の家、国立青少年交流の家等に対して、ESD推進ネットワークについて周知を図るとともに、その構築に向けて、ESDに関する講師の派遣、教材の提供や情報提供等、御支援・御協力をお願いします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"><p>(本件担当) 文部科学省国際統括官付(鈴木、高橋) 〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2 電話：03-6734-3402 FAX：03-6734-3679 E-mail：jpnatcom@met.go.jp</p></div>
---	--

IV ユネスコ／日本ESD賞(1)

1. ユネスコ／日本ESD賞について

ユネスコ／日本ESD賞は、世界中のESDの実践者にとってより良い取組に挑戦する動機付けと、優れた取組を世界中に広めることを目的として、**日本政府の財政支援により創設**され、「ESDに関するユネスコ世界会議 閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合(2014年11月、愛知県名古屋市)」にて、文部科学大臣から正式に発表。

ユネスコ加盟国又はユネスコと正式な協力関係にあるNGOが、それぞれ3件まで個人・団体をユネスコに推薦。**世界中から推薦された案件から、国際審査会による議論に基づき、毎年3件の受賞団体・者をユネスコが決定**。受賞団体・者に授与される賞金は5万USD/件。

2. 2015年/2016年の受賞団体・者及び表彰

【2015年】

- Asociación SERES (グアテマラ共和国、エルサルバドル共和国)
- The Centre for Development of Early Childhood, Non-Formal and Informal Education (インドネシア共和国)
- rootAbility (ドイツ連邦共和国)

【2016年】

- **岡山ESD推進協議会**
- The Center for Community Regeneration and Development (カメルーン)
- National Union of Students (英国)



第1回表彰式(2015年11月)

IV ユネスコ／日本ESD賞(2)

岡山ESDプロジェクト



○ 国連大学が提唱した「ESD推進の地域拠点(RCE)」構想に基づき、岡山地域の特性に応じたESD推進に向けて2005年4月に設立したESD推進協議会が主体となって実施。市民団体、NPO、学校、大学、企業、行政等、259団体が参加(2016年8月現在)。

○ 様々な団体・組織が連携して地域全体で効果的にESDを推進していくために「岡山ESDプロジェクト基本構想」を策定。岡山市を中心に、環境保全や国際理解、防災、伝統文化の継承など、環境・経済・社会に係る幅広い分野で活動が行われている。

○ 公民館やユネスコスクールをはじめとする学校を拠点とした地域コミュニティにおける取組や、多様なステークホルダーの協働、行政や大学の継続的な支援等の仕組みづくり(岡山モデル)が進展。岡山市は、協議会の一員として「持続可能な開発のための教育に関する条例」等に則り、自治体全体でESDを推進(ホール・シティ・アプローチ)

○ 「岡山ESDプロジェクト2015-2019基本構想」の8つの重点取組分野に沿ってESDを推進

- ①持続可能な地域の姿の共有 ②ユース・人材育成 ③地域コミュニティ・公民館 ④学校 ⑤優良事例の顕彰 ⑥ESD活動の拡大 ⑦企業取組促進 ⑧海外国内との連携

IV ユネスコ／日本ESD賞(3)

ユネスコ／日本ESD賞受賞記念 ESD岡山フォーラム

(主催:岡山市、岡山ESD推進協議会、文部科学省)

1. 目的

岡山ESD推進協議会が第2回ユネスコ/日本ESD賞を受賞したことを踏まえ、岡山市域で取り組まれてきたESD活動について見つめ直すとともに、今後のESDの進め方や持続可能なまちづくりについて考える。また、世界のESDの状況や等について学ぶとともに、岡山市民と世界のESD関係者との交流の場を設ける。

2. 日時

平成29年1月22日(日)9:30～17:00

ユネスコ/日本ESD賞 歴代受賞者、ユネスコ本部担当者、アジア太平洋地域5ヶ国のユネスコ国内委員会 参加予定

3. 場所

岡山大学創立50周年記念館

4. プログラム

- 第1部:ユネスコ/日本ESD賞 歴代受賞者による活動発表
- 第2部:岡山市のESD及び持続可能なまちづくりに関する状況報告
パネルディスカッション
- 岡山地域のESD活動やESD賞受賞事業、ESDステークホルダーの活動等に関するパネル展示

V 「ESD推進の手引」と活用

「ESD推進の手引」の作成

ESDを各教科、総合的な学習の時間等において具体的にどのように実践すればよいのかや、その準備の進め方等のイメージを示す手引の作成について提言を受け、**ESDに関する研修を企画・実施する担当指導主事または学校管理職を対象**とした「ESD推進の手引」を作成

○地球規模の問題解決のみならず、環境、社会、経済、文化の関係性を考慮した総合的な取組を通じて、持続可能な社会の担い手を育てる教育が求められている旨を明記

優良事例に基づき、**ESDに取り組む上でのポイントとなる点を解説。**

1. 校長の学校経営方針とESDの目標
2. 指導案の作成
3. 発信と振り返り
4. 地域や大学・企業との連携
5. 学校運営(ホールスクールアプローチの展開)：

○ESDに関する研修プログラムのモデル、初歩的な疑問点についてQ & Aで記載、関係用語集やリンク集を掲載。

〈今後の活用〉

○教育委員会等に周知・研修における活用を促す。

学校、教育委員会等との連携による**手引を活用した研修を全国5カ所で実施予定(H28)**
⇒学習指導要領の改訂に向けた検討も踏まえ、引き続き内容の充実を図る

VI ESD推進拠点としてのユネスコスクール(1)

ユネスコスクールはESDの推進拠点です。

文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付け、その質を確保するため、ユネスコスクールガイドラインを策定しています。

ユネスコスクールとは？

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校であり、ユネスコが加盟承認する学校です。

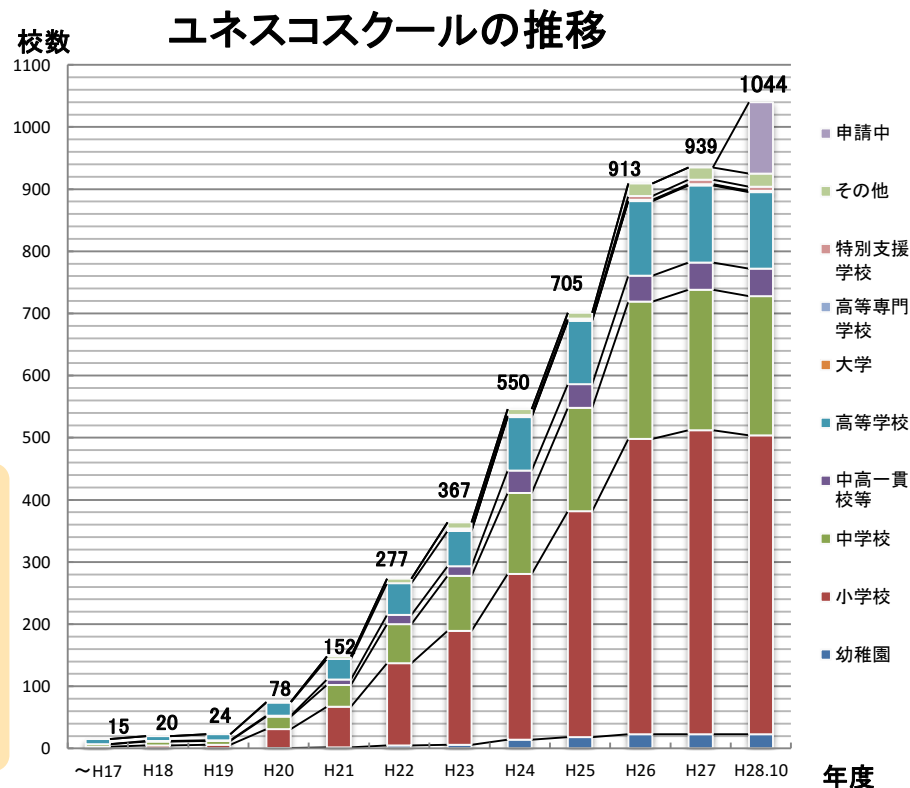
現在、世界182以上の国・地域で10,000校以上のユネスコスクールがあります。

日本国内の加盟校数はユネスコ本部へ加盟申請中の学校を含め1,044校です(平成28年11月現在)。

◎ユネスコ憲章(抜粋)

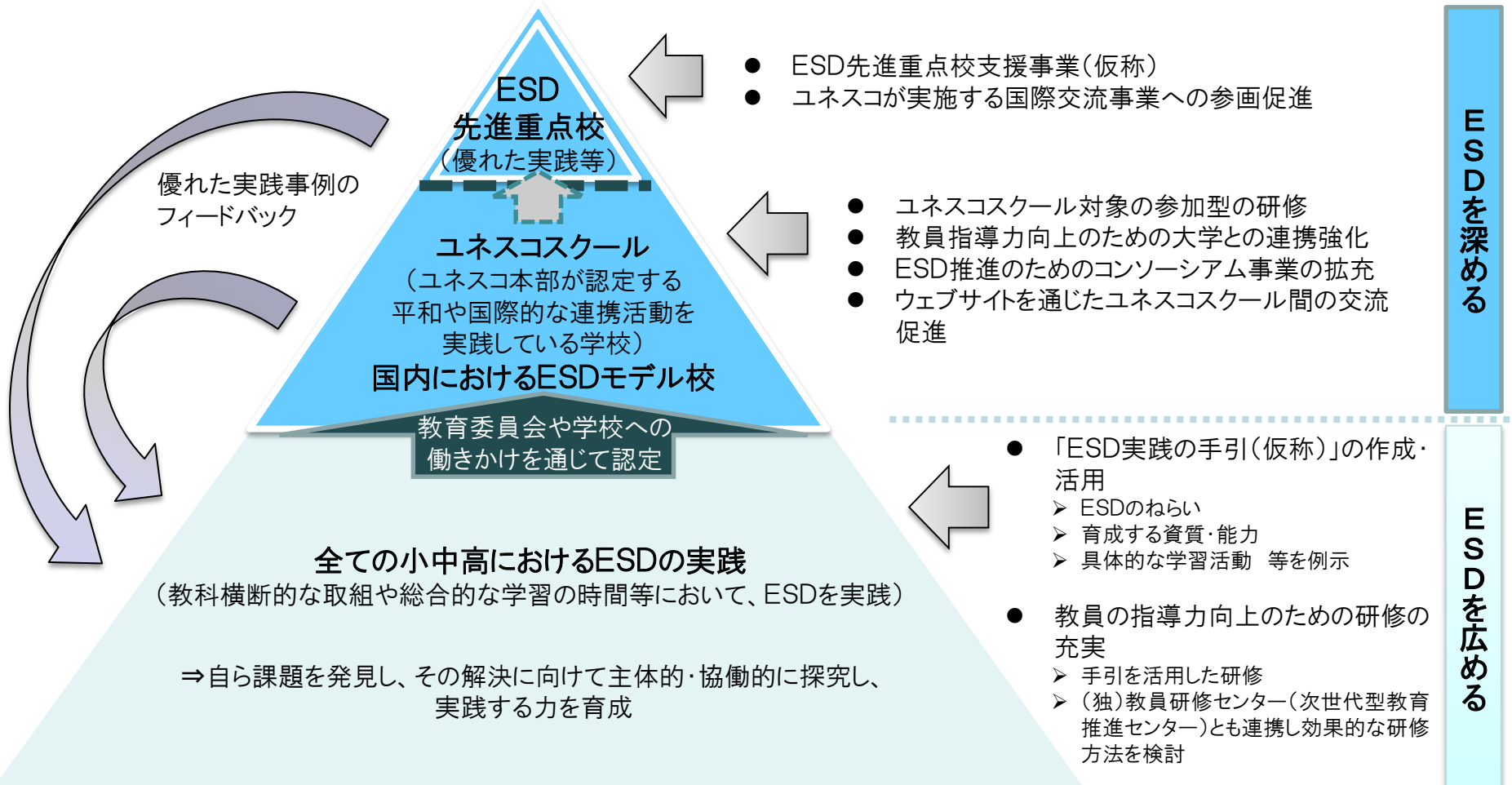
第1条 目的及び任務

1 この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言葉又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。



VI ESD推進拠点としてのユネスコスクール(2)

全ての学校でのESDの実践を目指すとともに、ユネスコスクールをESDの実践効果を高める取組を先導するモデル校として位置付ける。



VI ESD推進拠点としてのユネスコスクール(3)

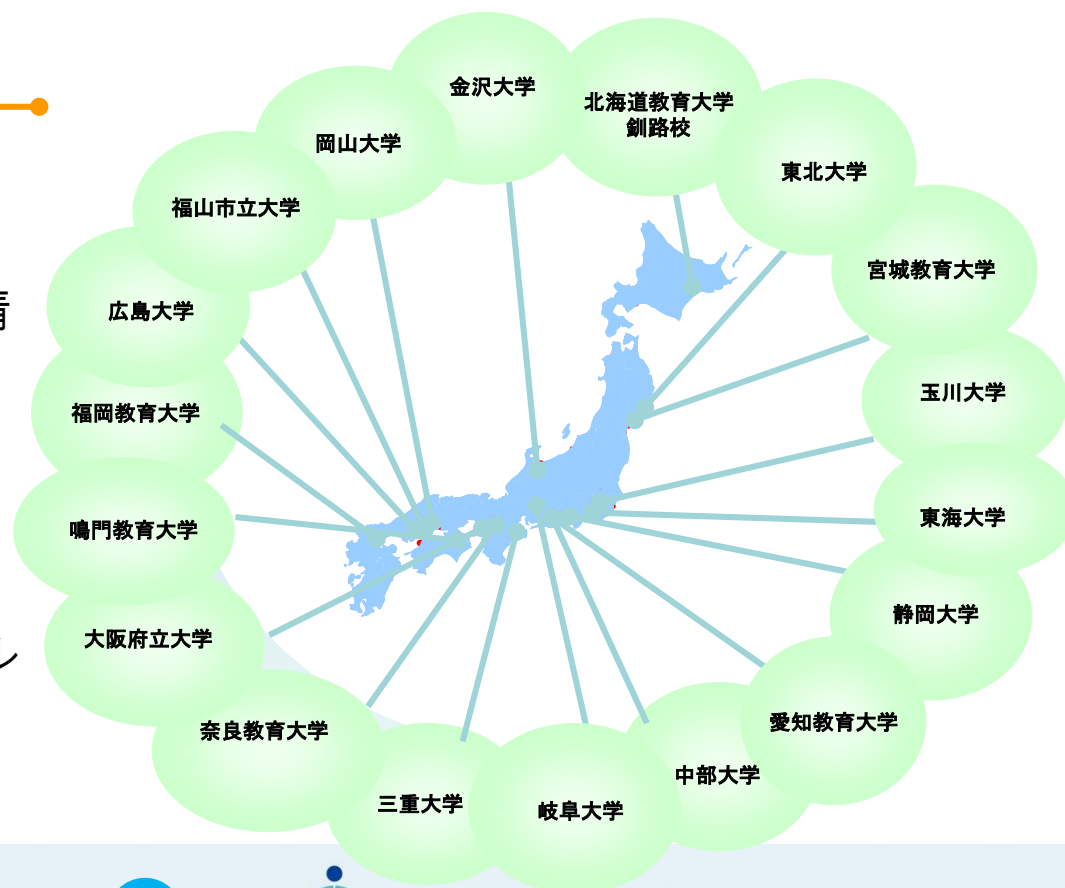
ASPUnivNet ユネスコスクール支援大学間ネットワーク

大学高等教育機関は、ESDに関する優れた教育資源を提供できる能力を備えています。その能力を生かし、ユネスコスクールのパートナーとしてユネスコスクールの活動を支援するための大学間ネットワークがユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)です。

活動内容

日本の特色ある取組として、ユネスコスクールに助言・支援をしています。

- ①学校のユネスコスクール加盟(申請や活動)を支援します。
- ②大学の持つ知的資源をユネスコスクールの活動に提供します。
- ③国内外のユネスコスクールとのネットワーク作りを支援します。
- ④地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。



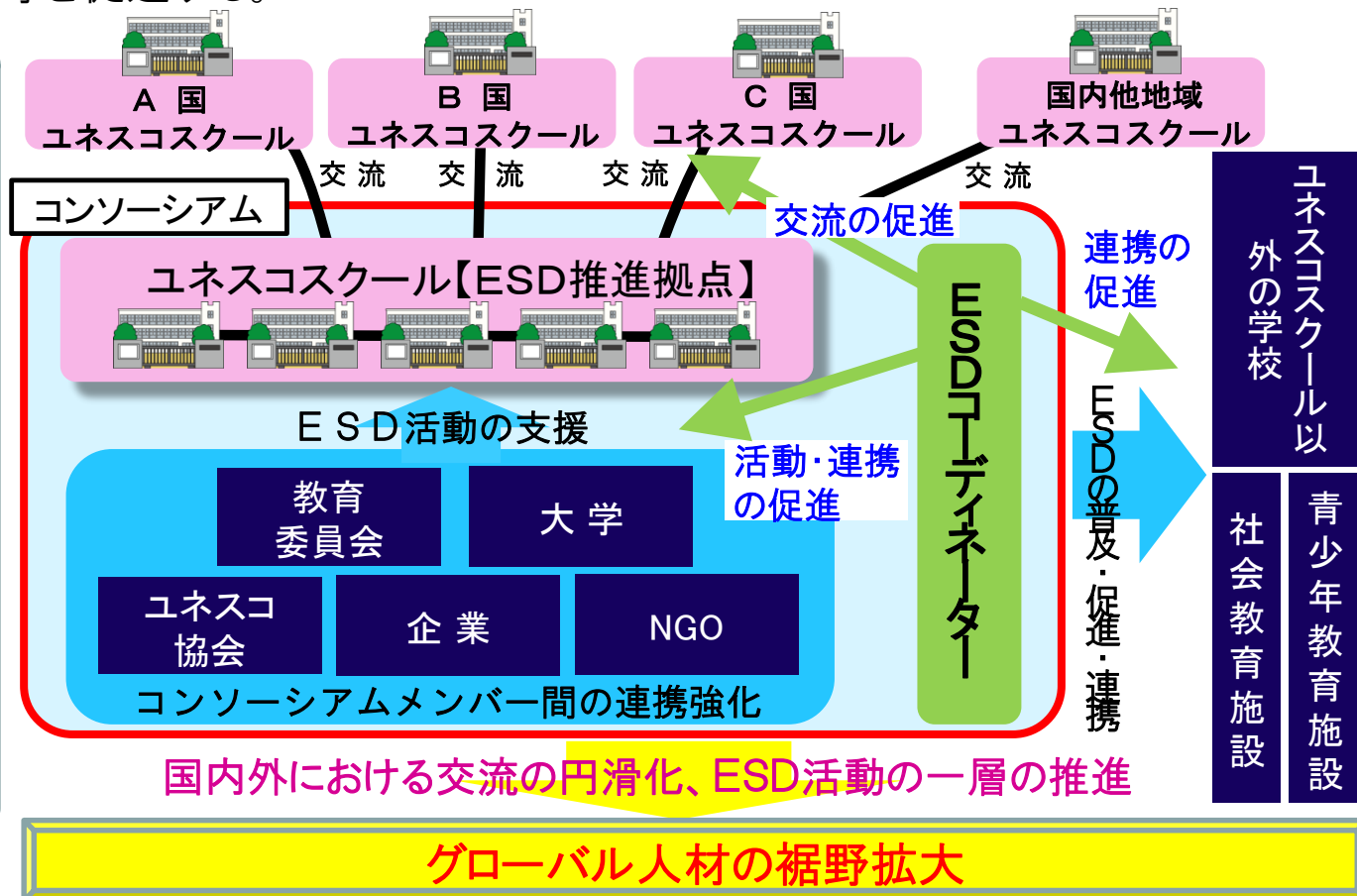
VI ESD推進拠点としてのユネスコスクール(4)

ESD推進のためのコンソーシアムの形成

教育委員会及び大学が中心となり、ユネスコ協会及び企業等の協力を得つつ、ESDの推進拠点であるユネスコスクールとともにコンソーシアムを形成し、ESDの実践・普及及び国内外におけるユネスコスクール間の交流等を促進する。

コンソーシアムの機能

- 国内外の学校との交流促進・ESD活動の支援
- コンソーシアムメンバー間の連携強化
- 社会教育施設等との連携強化
- 域内の学校等へのESDの普及・促進



VI ESD推進拠点としてのユネスコスクール(5)

ユネスコスクールの申請/加盟承認の状況等

○2015年4月～10月の間に文科省にて申請受付

→2015年10月ユネスコへ申請 40件

○2015年11月～2016年2月の間に文科省にて申請受付

→2016年2月ユネスコへ申請 46件

○2016年3月～2016年9月の間に文科省にて申請受付

→2016年10月ユネスコへ申請 29件

→2017年1月現在すべて未登録で、計95件の申請がユネスコASP課で止められている状況



国内委員会の対応

○ユネスコASP課に対し、状況の改善を強く要請

○各校からの申請はユネスコへ「加盟申請済」である旨教育委員会に連絡

○日本のユネスコスクールリストに申請済みの各校についても「加盟申請中」として掲載、HP、メーリングリスト、パンフレットを通じて全国で共有

VI ESD推進拠点としてのユネスコスクール(6)

ユネスコ本部におけるユネスコスクールに関する検討

監査におけるユネスコスクール事業に関する指摘

- 1万校の3割が、10か国に集中
 - ⇒ 地理的バランス／国ごとの上限数の導入？
- メンバーシップに期限がなく、不活発なユネスコスクールが存在
 - ⇒ メンバーシップに期限・フォローアップの導入？
 - ⇒ 各国で加盟申請に際し基準と事前セレクションに義務付け？



ユネスコの対応(本部が検討中)

- OTA(Online Tool for ASPnet)の利用を推奨(加盟承認・フォローアップツールとして)
- 各国における事前セレクションの実施(活動を見守る期間の導入等)

VI ESD推進拠点としてのユネスコスクール(7)

今後我が国においても検討すべき事項

1. 事前セレクションの検討
 - チャレンジ期間の導入
 - 推薦基準の設定
 - ASPUnivNetの役割

等

2. 効果的／効率的なフォローアップの検討
 - 国際的なビジビリティの向上
 - OTAの活用

等

- 当面は、既に提出済の申請処理をユネスコに働きかけるとともに、年度内に申請プロセスの新ルールを策定できるよう検討
(新ルールの確定まで、新規申請をいったん保留)



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Coordination Japan



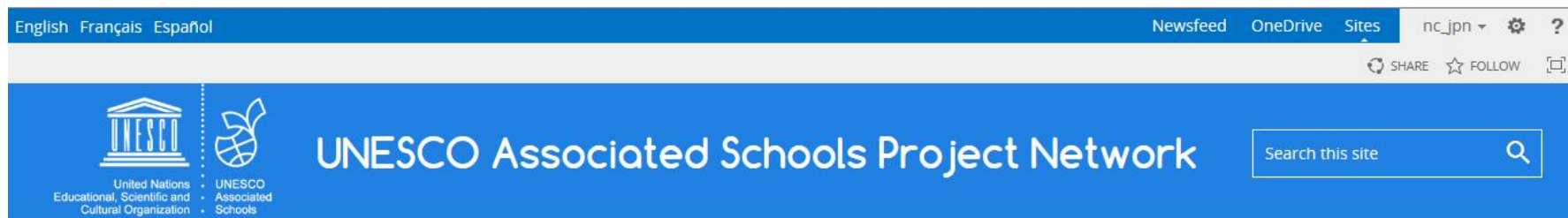
UNESCO
Associated
Schools

VI ESD推進拠点としてのユネスコスクール(8)

Online Tool for ASPnet (OTA) について

ユネスコ本部においてユネスコスクールのウェブサイトを開設

<https://aspnet.unesco.org/en-us/Pages/Default.aspx>



OTA利用のポイント

- ユネスコ本部が発信する情報の収集が可能
- ユネスコ本部が作成した教材やマテリアルをOTAからダウンロード可能
- 海外のユネスコスクールの活動内容の確認、オンライン上での交流 等

Ⅶ 持続可能な開発目標(SDGs)とESD

持続可能な開発のための2030アジェンダ

- 3年に及ぶ議論・交渉を経て、2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。
- 先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標(持続可能な開発目標:SDGs)を設定。

SDG4 Education 2030

- SDGsのうち目標4については、「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」とする教育に特化したもので、10のターゲットから成る。このうち、ターゲット4.7では、以下のとおりESDも位置付けられている。

4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

ESDの取組は、本来、目標4.7のみにおいてとらえられるべきものではなく、貧困の撲滅や平和の構築などを含むSDGs全体について学ぶこともESDの一つの形態であるとの考え方に沿って、SDGsに関する啓発資料や各種取組も活用しつつ、各実施主体において、多様な取組の展開が期待される。

持続可能な開発目標(SDGs)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



御清聴ありがとうございます

ESD ポータルサイト <http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/>

ESD Facebook <https://www.facebook.com/esd.jpnatcom/>

日本ユネスコ国内委員会Webサイト <https://www.mext.go.jp/unesco/>

日本ユネスコ国内委員会Facebook <https://www.facebook.com/jpnatcom/>

Online Tool for ASPnet (OTA) <https://aspnet.unesco.org/en-us/Pages/Default.aspx>



日本ユネスコ国内委員会
Japanese National Commission for UNESCO